

しんらんしょうにんごたんじょう うた
親鸞聖人御誕生の歌

■楽曲データ

歌詞：藪田義雄 作詞

楽曲：平井康三郎 作曲

発表：真宗教団連合 1972年

初演：—

初出：『親鸞聖人御誕生 800年・立教開宗 750年記念 親鸞聖人御誕生の歌』 真宗教団連合 1972年

管理番号：M1601

■創作の経緯

親鸞聖人御誕生 800年・立教開宗 750年を記念し、1972年に発表された。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第3巻収録

底資料：『親鸞聖人御誕生 800年・立教開宗 750年記念 親鸞聖人御誕生の歌』 真宗教団連合 1972年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

親鸞聖人は、1173(承安3)年5月21日、京都郊外・日野の里で誕生されました。2015年で生誕842年になります。この《親鸞聖人御誕生の歌》は、1973(昭和48)年、聖人御誕生800年・立教開宗750年を記念して、真宗教団連合により制定されました。

◆作詞者について

作詞者は、『めぐみ』327号で取り上げた《いのち》と同じく、詩人の藪田義雄(1902～1984)です。藪田は神奈川県に生まれ、作詞を北原白秋に学び、「沙羅詩社」を主宰しました。「日本文芸家協会」「詩と音楽の会」などの委員もつとめ、数多くの詩を遺しています。

◆作曲者について

作曲者の平井康三郎(1910～2002、本名・保喜)は、高知県生まれ。92歳で逝去するまでに、数多くの作品を遺しています。

東京音楽学校(現・東京芸術大学)器楽科を卒業し、1936(昭和11)年、同

研究科作曲部を修了。在学中に交声曲《大いなる哉》でデビューしました。この作品は、林古溪（1875～1947）の詩をもとに作曲され、仏教各宗合同で行われた釈尊生誕2500年のお祝い（1935年）において発表されました。初演は、同年4月8日、東京上野の松坂屋ホールで、作曲者の指揮で行われ、仏教音楽の画期的な大作として注目を浴びました。

平井はその後も、数多くの仏教讃歌を作曲し、《衆会》《咲き匂う》《ゆるされし》などがよく知られています。

◆詩について

1番は、親鸞聖人誕生時の時代背景を詠み、2番は、ただ弥陀の本願をよりどころとして生きていくことの大切さを、3番では、念仏のみ教えを民衆と共に、生き抜かれた聖人のご一生をうたわれています。

◆曲について

《ゆるされし》と同じ調性で書かれ、ハ短調からハ長調へと転調しています。

◆歌い方について

- ①冒頭に「厳肅に 喜びにみちて」という曲想が示されています。ただし、あまり遅くならないように歌いましょう。
- ②6小節目から7小節目にかけてのソ→ドは、簡単なようで取りにくい音程です。9・10小節目も同じです。よく練習しましょう。
- ③音の上がり下がりが多い作品ですが、ソの音を中心に歌うように心がけましょう。
- ④ハ長調に転調する後半部分は、真実信心からあふれてくる力強さをもって、特に明るい声でフィナーレまで歌いあげましょう。
- ⑤18小節目に一ヶ所、付点8分音符と16分音符が出てきます。いきいきとしたリズムにのって歌いましょう。
- ⑦最後の部分（20小節目4拍目～22小節目まで）は、のびのびとした声で歌いあげましょう。
- ⑧1番の歌い終わりから、2番に入るとまたハ短調に戻ります（3番も同じ）。気持ちを切り替えて歌いましょう。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 62（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第189号収録）を加筆・修正のうえ、転載。